

(様式1)

## 令和4年度 学力向上を図るための全体計画

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校名 | 墨田区立言問小学校 |
| 校長名 | 井上 義郎     |

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

| 成 果   | 課 題   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・全観点中、目標値以上は51観点中48、区平均以上は51観点中38であった。</li><li>・全国平均より5ポイント上は、51観点中38観点。2～4年生は全ての学年で上回った。</li><li>・教科では国語と算数全ての観点で全国平均を上回った。</li><li>・同一集団で観ると「算数」[理科]で0～+3ポイント上昇した。</li><li>・本校の平均正答率と区平均正答率を比較すると、約3ポイント上回った。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・第5学年の社会と算数では、目標値に届かなかった観点が3観点あった。また、第6学年の理科は区平均と比較して0.9ポイント、英語は3.4ポイント下回った。</li><li>・第5学年は全ての教科でA層が0人であった。一方で、B層の割合が最も高く、B層を伸ばし切れていない実態が見られる。</li><li>・2・3・5年生はB層。4・6年生は、B・D層に重点を絞って学力を上げていく必要がある。</li><li>・全ての教科に対して、読解力や思考・判断力を育てていくため、「書くこと」に重点を置いた授業づくりが必要である。</li></ul> |

#### (2) 意識調査結果から

| 成 果  | 課 題  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・自己肯定感を構成する「成功体験と自信【自信】」と「充実感と向上心【意欲】」が全ての学年で、iスコア3.0以上であった。</li><li>・自己肯定感と学習環境で見たところ、「先生の支え」「学習意欲」が前学年で、iスコア3.0以上であった。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・「学級の規律」「学習習慣」は、4年生以上がiスコア2.0台にとどまった。特に「学習習慣」は家庭との連携や啓発はもちろんであるが、宿題の出し方や工夫が今後の課題である。</li><li>・「他者からの評価」は全ての学年でiスコア2.0台であった。ただ、単に「褒める」のではなく、成功したとき、できるようになったとき、努力が報われたときなど、褒めるタイミングを見逃さずに評価していくことが肝要である。また、意図的にそのような場を設定していくことも大切である。</li></ul> |

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

| 成 果   | 課 題   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度の経験から「学習スタンダード」を見直し、学習規律や学習環境など、全校で取り組む最低限の約束ごとを共有し、日常化している。</li><li>・放課後補習、低学年「アタック」、高学年「言</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・約束ごとをどのクラスも継続的に実施していくことが課題である。</li><li>・担任中心の放課後補習のため、CD層の人数</li></ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>問塾」の参加児童をCD層にしぼり、計画的に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校にいる間に取り組ませる「デイワーク」、家庭で取り組ませる「ホームワーク」を全校で取り組んでいるが、2年目となり定着してきている。</li> </ul> | <p>が多い学年は手が回りきれないことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ i-check テストで、「学習習慣」の i スコアが4年生以上で伸び悩んでいる。「ホームワーク」の内容を今後、改善していく必要がある。</li> </ul> |
|--|--|

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 学力向上委員会のリーダー的役割の定着

- ・組織的に児童の学力を向上させるため、「学力向上委員会」を改革して2年目となる。改革により課題の共有、教員の指導力向上、系統的な向上策の実施など、組織を挙げて学力向上を図る取組が定着してきている。また、教員も学力向上に対して自分ごとと捉え、前向きに取り組んでいる。教員の意識の継続を図りたい。

### (2) 校内研究とリンクされた学力向上

- ・児童の学力向上を図るためには、「分かる授業」が日常的に提供されなければならない。教師の授業力向上は、学力向上にとって不可欠である。そのため、校内研究では、全学級で研究授業を行い、教員同士の切磋琢磨により、個々の教員の授業力向上に努めている。
- ・研究内容を「国語科」としている。なぜなら、言語教育の充実が学力向上に直結するものだからである。その中でも、「書くこと」に重点を置き、自分の考えを文字として書き表し、整理する習慣を付けさせる。話し合いを通して、友達の学びのよさに触れ、ノートに書いた自分の考えに取り入れ、推敲させる。そのような作業を年間を通し、その教科でも行い、児童の論理的思考力の向上、深い理解に結び付ける。

### (3) GIGA・ICT活用研修の実施

- ・今年度、他区からの異動者5名、新規採用者1名。墨田区のGIGAスクール構想やICT機器活用は、他区より進んでおり、他区から来た教員がまだ使いこなせず、元々いた教員のクラスとの格差がある。それを埋めるため、GIGA・ICTリーダーに校内研修を複数回行わせ、基本操作や効果的な活用法を学ばせていく。
- ・タブレットを活用した話し合いが発展途上である。タブレットの有効性ならではの活用や話し合わせ方を全校で共有し、効果的な話し合いを展開させる。

## 3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ・どの学年もB層に占める児童の割合が高い。B層に潜む隠れA層を20%引き上げる。
- ・来年度5年生以上のCD層を半数ずつ引き上げる。
- ・区平均より上の項目が51項目中38項目であった。来年度は44項目を目指す。